

補訂版

國書總目錄
第一卷

岩波書店刊行

題字 安倍能成

本書は、岩波書店創業五十年の記念出版である。昭和十四年、岩波茂雄の発意により、辻善之助先生並びに新村出先生の御指導の下に着手された『国書解題』出版の事業が、戦災によって中絶した後、戦後これを総合目録の計画に改めると共に、その編纂を森末義彰、市古貞次、堤精二、三先生に委嘱し、前後二十五年の歳月を閲して発行の運びに至ったものである。

事業の発端より今日に至る間、上記諸先生をはじめ、直接、間接に編纂に力を藉された方々の数は、百数十名にのぼる。ここに尊名を挙げることは差し控えるが、発刊にあたり、その並々ならぬ御骨折りと御厚情に対し、厚く御礼申しあげる。同時に、創業以来の学界並びに読者の恩顧を想いおこし、心からの感謝をささげつつ、本書を世に送る。

一九六三年十一月

岩波書店

編纂の辞

『国書総目録』がいよいよ世に出ることになった。ふりかえってみると、まことに感慨深いものがある。この『国書総目録』の前身ともいふべき『岩波国書解題』が、今は亡き岩波茂雄氏の発意により、故辻善之助および新村出両博士主宰のもとに、編纂の事業を開始したのは、今を去る二十五年前、昭和十四年のことであった。

当時国書の解題書として知られていたのは、佐村八郎氏の『国書解題』であるが、初版が出版されてからすでに数十年を経過し、その間増訂も行なわれたが、決して十分なものとは言いがたく、もはや、日進月歩の学界の要望を満足させることはできなくなっていた。そのような情勢のもとに企画された『岩波国書解題』は、当時としてはもっとも整った編集部を組織し、国初から江戸時代末までの間に日本人が著わした典籍類の解題を編纂、出版することを目標に、ひろく学界の支援を得て、昭和十九年には、ほぼ第一巻の刊行の見通しがつくまでになった。しかし、時はすでに日華事変から太平洋戦争に進んで、当時の国情では、このような大規模な出版は次第に困難になってきたばかりか、やがて本土空襲も激しさを加え、すでに組版作業にかかっていた印刷所が戦火に見舞われたので、この仕事もついに中絶のやむなきに至った。

空襲が激化するや、岩波書店では、周到な注意のもとに、これまでに集めた目録やカードを疎開しておいたので、百万枚に近いカードは、幸いに戦禍を免れることができた。戦後、世情が安定するとともに、事業の再開について、あらゆる角度から検討された結果、昭和三十二年に至って、従来のような解題に代え、このカードを基礎にして、新たに国書の総目録を刊行するという方針が決定された。編纂を委託されたわれわれは、総目録といっても、単なる国書の目録ではなく、書誌学の成果を十分に取り入れ、現代の学界の要望に添えるようなものになりたいと考えた。そこで新たに国書研究室を設け、目録類などの資料を整備して、『国書総目録』の編纂に当ることとしたのである。こうして『国書総目録』はその第一歩を踏み出すことになった。

『国書総目録』が最初に目標としたところは、終戦時までに採集したカードにより、国初から慶応三年までの間に、日本人が著

作し、編集し、あるいは翻訳した書籍を採録することになった。しかし、編纂の仕事が進行するにつれて、戦前のカードは、解題の原稿を依頼するための基礎資料として採集したものであり、総目録の作製には必ずしも十分でないことが、次第に明らかになってきた。さらに、戦災による焼失、戦後の社会情勢の変化による書籍の移動その他の事情を考慮すると、どうしても新しいカードの採集に踏み切らざるを得なくなった。こうして採集したカードは約七十万枚に達し、戦前、戦後を通じて、約四百数十に及ぶ主要な公私立図書館、大学付属図書館あるいは各地の文庫等の蔵書を採録することができた。しかし個人の蔵書は、特殊な部門のほかは採集しないことを原則としたし、また、たとえば近世の庶民史料などは、あまりにも数が多く、未整理なものも少なくないので、その採集に制限を加えた。カードの採集はここで一応打ち切り、百七十万枚のカードをもとにして、原稿の作製にとりかかることにした。そして、概算ではあるがこのカード数から五十万という収載項目の見当をつけ、これを全八巻に収めることにしたのである。

収載の各項目には、それぞれ、よみ、巻冊、分類、著编者、成立年代等について記したが、編集の基本的意図はあくまで全国図書館文庫の総合目録の作製にあるので、その所在については特に考慮を払った。すなわち、研究者が自分の研究に必要な書物を探索する時、その所在を知るのに多大の労力を費すことに思いを致し、写本、版本の所在は、煩をいとわず逐一これを掲げることになった。また、明治以後刊行の叢書に収められたものについては、その旨を明記したが、これも、この種の目録を利用する研究者の便宜を考慮したからである。なお第八巻には写本、版本、活字本の叢書目録を収載する予定である。

われわれとしては、原稿作製に当って、何よりもまず記述の正確を心がけたが、前にもふれたように、蒐集したカードその他の資料は必ずしも完全とは言いがたく、かつ時間の制約等の諸事情から、原本について一々調査する余裕が無かったために、なお遺漏、誤記の類も少なくないのではないかと恐れている。それにもかかわらず、あえて本書を公刊するに至ったのは、これだけの資料の蓄積は今後再び容易には望み難く、今日これを整理し公刊しなければ、悔を千年にのこすおそれがあったからである。いずれにしても、未だ何人によっても試みられなかった総合目録として、五十万に上る膨大な国書をここに収載し得たことは、せめてもの喜びである。今後なお追補さるべき点も多いであろうが、もし本書が、一つの礎石として、長く学問の進展に寄与することができるならば、編者にとってこれに過ぎる幸いはない。

この『国書総目録』ができあがるまでには、全国の公私立図書館、各大学付属図書館、各地の文庫当事者をはじめ、ここに一々芳名を記すことをしなかったが、各部門の専門研究家諸氏の御援助と御協力に負うところが少なくなかった。なお、岩波雄二郎氏をはじめ岩波書店の各位が、終始この事業を推進し、創業五十周年を機会に、この公刊に踏み出されたことに対し、心から謝意を表したい。

昭和三十八年九月

国書研究室

森末義彰
市古貞次
堤精二

凡 例

一、国書総目録は、戦前の採集にかかる書目カード約一〇〇万枚を基盤とし、これに戦後採集した約七〇万枚を追加し編纂したものである。この書目カードは、全国の主要な公私図書館、各大学付属図書館を中心に、各地の文庫などから広く採集した。ただし、個人の蔵書については、特殊の部門を除くほか、採集しないことを原則とした。なおカードの採集は昭和三十五年で一応打ち切った。

二、本目録に収載した書目は、国初から慶応三年までに日本人の著編撰した書籍に限った。

1. 日本人の著作にかかるものであれば、和文・漢文・欧文を問わず収めた。

2. 日本に帰化したとみなすべき外国人の、わが国における著述は収めた。

3. 外国書の全部または一部を書写し、あるいは刊行したものは収めない。ただし外国人の著述を、日本人が改修編纂したものは収めた。

4. 外国書を翻訳したもの、または注釈を施したものは収めた。ただし、漢籍の場合、原文に句読点を施したに過ぎないものは収めない。なお、施された注が書込み程度のもを除き、頭書・首書の類は収めた。

5. 近世の庶民史料は膨大な数に上るのみならず、未整理のものが多いため、割愛した場合が少なくない。

三、一枚（一鋪・一包・一幅等）の書画・絵図・古文書など、すべて巻冊をなさないものは、原則として収めない。なお、絵巻物・書画帖の類は収めたが、拓本類は割愛した。

四、一篇の文章の類は原則として収めないことにした。ただし、浄瑠璃・長唄の類の歌謡の一篇は便宜これを収めた。

五、本書の編纂目的は現在書目録の作製にあるが、散佚書の主なものは参考として採録した。

六、この目録における記載事項は、書名、よみ、巻冊数、角書、別称、分類、著编者、成立、写本・版本の所在、活字本、複製本等である。

項目

1. 書名をもって項目名とし、これを本項目と参照項目とに分かつた。

2. すべて同一書と認められるものは、一括して一項目とした。

3. 改題本については、原題名・改題名をそれぞれ本項目として掲げた。

4. 武鑑などの逐次刊行物及びこれに準ずるものには便宜上一括して一項目としたものがある。なお、一括する項目としては右のほかに検地帳・能の本・能狂言などがある。

5. 同名で異書であるか否かが判明しない場合は、便宜×を項目の肩につけて、まとめ項目であることを示した。

6. 本項目として採用しなかった別称・略称などの主なものは、参照項目として掲げ、↓印を付して本項目を参照させた。

7. 地名・人名などに二様のよみのある場合は、本項目としてはなるべく慣用のよみに従った。なお、他方のよみを次のように参照項目として掲げた。

(例) 石原いしはら…… ↓石原いしはら……

8. 冠称(書名の上の割書きなど)は、原則として省いた形を項目とし、冠称の部分はの欄に記した。ただし、冠称から読み下した方が項目として適当と思われる場合には、冠称の部分を一行の小書きとした形で項目をたてた。なお、の欄以外の各欄でも書名の

冠称は小書きで記した。

9. 二種以上の書籍が合冊になっている場合は、それぞれの書名で一項目をたて、所在名の下または備考欄に合冊であることを注記した。

排列

1. 項目の排列は書名のよみの五十音順による。ただし、「ぢ」「づ」は「じ」「ず」の順位に、助詞の「へ」「を」「は」は「え」「お」「わ」の順位に排列した。
2. 五十音順で順序のきまらない項目は次のように排列した。
イ、清音・濁音・半濁音の順にした。
ロ、片仮名表記・平仮名表記・漢字表記の順にした。
ハ、同音の漢字表記の排列は画数の少ないものを先にし、一音一字は二音一字の先にした。

よみ

1. 原則として項目にはよみをつけた。よみの表記は現代かなづかいである。なお、前項と重複する部分のよみは——を使用して省略した場合がある。

2. 同一書名で、二つ以上のよみ方のある場合は、適宜その一つを選び、別訓は()の中に記した。

巻・冊

1. その書が何巻に分かれ、何冊より成るかを記した。
2. 卷子本(絵巻物など)は軸で数え、折本(画帖・法帖など)は帖で数えた。
3. 諸本により巻冊数を異にするものは、原形と思われるものをできるだけ記すようにした。その場合は、㊦・㊧の欄の所在名の下に、これと異なる巻冊数を記した。

角書——㊨

1. 冠称(書名の上の割書きなど)はすべて角書とみなして、この欄に記入した。(vページ下段8参照)

別称——㊩

1. 項目名と異なる原称・別称・略称などの主要なものを記した。
なお、原称・内題・外題等を注記した場合がある。

2. 改題本の書名はこの欄に記さず、備考欄に記した。

分類——㊪

1. この欄には、おおよその内容を示すために類別を記した。

2. 分類名の下に、さらに細かい類別を注記した場合もある。

著编者——㊫

1. 著者・编者・作者・画家及びこれに準ずる人名を記した。

2. 上皇・法皇(院)は天皇とした。

3. 翻訳書の場合、原著者の判明しているものは、これを記した。

成立——㊬

1. 成立年代、あるいは初版刊年・初演年代(演劇関係)などを記した。

2. 成立年代は不明であるが、成立を推定するに役立つと思われる序・跋などのあるものは、ここに記した。

3. 成立年代が明確でないが、大体の時代、または年次がわかる場合は、その大体の年代を記した。時代名は飛鳥・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町・安土桃山・江戸を用いた。

4. 成立推定年代と初版刊年とに隔りがある場合は、この欄に初版刊年は記さず、㊭の欄に記した。

写本・版本——㊭

1. ㊦・㊧のそれぞれの欄に写本・版本の所在する図書館・文庫等を示した。なお、図書館名・文庫名は略称で記した。(別表「図書館・文庫一覧」参照)

2. 図書館・文庫等に所属する特殊文庫、あるいは大学の中の一部局を示す場合などは、その下に小書きで注記した。
3. 写本は、明治以後に筆写したものを掲げた。
4. 原本・自筆本・稿本は、所在名の下に注記した。
5. 同一書と認められるものは一括して一項目としたが、その項目名と異なる書名は、所在名の下に「」をつけて注記した。
6. 巻冊数・書写年等の異なる写本が数部ある場合は、()をもつて一本毎に表示した。
7. 写本・版本の叢書及び版本の集め本に所収のものは、所在名の下にその旨を注記した。なお、その叢書が多数の図書館にある場合は、一々を記さず次のように記した。

(例) ⑧歌合部類の内

8. 戦災その他で所在の明らかでないものについては、旧蔵者を掲げた場合もある。

活字翻刻 — ⑨

1. 明治以後刊行の活字本の叢書に所収のもの、単行の活字翻刻本、または雑誌・紀要などに翻刻されたものを記した。
2. 全文の翻刻でないものは原則として記載しない。
3. 叢書所収のものはその巻数・部類等を、雑誌に翻刻のものは、その巻号、または刊行年月を記した。
4. 同じ叢書が数次にわたって刊行されているときは、巻数の異同にかかわらず、原則として新版によった。ただし各版により所収書目が異なるものについては、新版・旧版をそれぞれ掲げたこともある。

5. 校訂者名は単行本に限り記した。

謄写翻刻 — ⑩

1. 謄写版による翻刻本を記した。記載の方法は活字本の場合と同様である。

複製本 — ⑪

1. コロタイプ版・オフセット版・凸版・凹版・木版・石版などの複製本を記した。

備考欄 — *

1. 項目を記述するために利用した参考文献名を記した。
2. あわせ本の内容などを注記した。
3. このほか、既出の各欄に記載し得ない事項を記した。

図書館・文庫一覽

略称	図書館・文庫名	備考
〔国立図書館等〕		
国会	国立国会図書館	
国会伊藤	伊藤文庫	
国会鴉軒	鴉軒文庫	
国会青山	青山文庫	
国会亀田	亀田文庫	
国会旧幕	旧幕関係引継書	
国会白井	白井文庫	
国会新城	新城文庫	
内閣	国立公文書館内閣文庫	
静嘉	静嘉堂文庫	
東洋	東洋文庫	
東洋岩崎	岩崎文庫	
東洋小田切	小田切文庫	
東洋藤田	藤田文庫	
宮書	宮内庁書陵部	
宮書伏見	伏見宮家本	
東山御文庫	京都御所東山御文庫	
史料館	国文学研究資料館史料館	
史料館祭魚洞	祭魚洞	
水産資料館	水産庁水産資料館	
東博	東京国立博物館	
京博	京都国立博物館	
奈博	奈良国立博物館	
学士院	日本学士院	
略称	図書館・文庫名	備考
〔大学付属図書館等〕		
通博	通信総合博物館	
愛知学芸	愛知教育大学	
愛知女大	愛知県立大学	
愛知女大石田	石田文庫	
愛知大	愛知大学	
青山学院	青山学院大学	
岩手大	岩手大学	
上野学園大	上野学園大学	
愛媛大	愛媛大学	
大阪市大	大阪市立大学	
大阪市大新村	新村文庫	
大阪市大福田	福田文庫	
大阪市大森	森文庫	
大阪女子大	大阪女子大学	
大谷	大谷大学	
岡山大	岡山大学	
岡山大池田	池田家文庫	
小樽商大	小樽商科大学	
香川大	香川大学	
香川大神原	神原文庫	
学習院	学習院大学	
学習院三条西	旧三条西家本	
鹿児島大	鹿児島大学	
鹿児島大岩元	岩元文庫	
鹿児島大玉里	玉里文庫	
金沢大	金沢大学	
関学	関西学院大学	
関大	関西大学	
岐草大	岐阜大学	
九大	九州大学	
九大文化	九州文化史研究施設	
九大細川	細川文庫	
京女大	京都女子大学	
京大	京都大学	
京大穎原	穎原文庫	
京大谷村	谷村文庫	
京大富士川	富士川文庫	
京大松本	松本文庫	
教大	筑波大学	
基督大	国際基督教大学	
熊本大	熊本大学	
群馬大	群馬大学	
慶大	慶応義塾大学	
慶大幸田	幸田文庫	
慶大斯道	斯道文庫	
慶大富士川	富士川文庫	
芸大	東京芸術大学	
芸大音楽	音楽学部	
芸大美術	美術学部	
神戸女大	神戸女学院大学	
神戸大	神戸大学	
高野大	高野山大学	
国学院	国学院大学	
駒沢	駒沢大学	
駒沢沼沢	沼沢文庫	
佐賀大	佐賀大学	
相模女子大	相模女子大学	
滋賀大	滋賀大学	
略称	図書館・文庫名	備考

実践	実践女子大学
種智院	種智院大学
松蔭女子大	松蔭女子学院大学
上智	上智大学
昭和女子大	昭和女子大学
白百合女子大	白百合女子大学
信州大	信州大学
水産大	東京水産大学
水産大羽原	羽原文庫
西山短大	西山短期大学
成城大	成城大学
聖心	聖心女子大学
聖心岩下	岩下文庫
清心女大	ノートルダム清心女子大学
早大	早稲田大学
早大演博	演劇博物館
早大小倉	小倉文庫
大正	大正大学
大東文化	大東文化大学
茶女大	お茶の水女子大学
中央大	中央大学
東外大	東京外国語大学
東京家政学院大	東京家政学院大学
東京商船大	東京商船大学
東京理科大	東京理科大学
同志社	同志社大学
東大	東京大学
東大鷗軒	鷗軒文庫
東大霞亭	霞亭文庫
東大教養	教養学部
東大酒竹	酒竹文庫
東大史料	史料編纂所

東大竹冷	竹冷文庫
東大知十	知十文庫
東大天文	国立天文台
東大本居	東京大学本居文庫
東北大	東北大
東北大岡本	岡本文庫
東北大狩野	狩野文庫
東北大教養	教養部
東北大林	林文庫
東北大藤原	藤原文庫
東洋大	東洋大
東洋大哲学堂	哲学堂
富山大	富山大学
富山大ヘルン	ヘルン文庫
日大	日本大学
日大会田	会田文庫
日大佐藤	佐藤文庫
日大富士川	富士川文庫
日本女子大	日本女子大学
花園大学	花園大学
阪大	大阪大学
一橋大	一橋大学
広島大	広島大学
福井大	福井大学
福島大	福島大学
富士見丘女子短大	富士見丘女子短期大学
仏教大	仏教大学
法大	法政大学
法大能楽	能楽研究所
北学大	北海道教育大学
北大	北海道大学
北海学園	北海学園大学

三重大学	三重大学
明治学院	明治学院大学
名大	名古屋大学
名大岡谷	岡谷文庫
名大皇学	神宮皇学館文庫
明大	明治大学
山口女子短大	山口女子大学
山口大	山口大学
山口大赤松	赤松文庫
山口大紫蘭	若月文庫
横浜国大	横浜国立大学
横浜市大	横浜市立大学
立教	立教大学
立正	立正大学
立命館	立命館大学
竜谷	竜谷大学
郡上高	岐阜県立郡上高等学校
西京商業高	京都市立西京商業高等学校
福井県立大野高	福井県立大野高等学校
鳳鳴青山	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校
宮崎県立日南高	学校青山文庫
〔都道府県立図書館等〕	
茨城	茨城県立中央図書館
青森	青森県立図書館
青森県庁	青森県立図書館
秋田	秋田県立図書館
秋田佐竹	佐竹文庫
秋田東山	東山文庫
石川	石川県立図書館
石川李花	李花亭文庫
茨城	茨城県立図書館

岩手	岩手県立図書館
愛媛	愛媛県立図書館
愛媛伊予史	伊予史談会文庫
大分	県立大分図書館
大阪府	大阪府立中之島図書館
大阪府石崎	石崎文庫
大森	京都府立植物園大森文庫
岡山県	岡山県総合文化センター
沖繩	旧沖繩県立沖繩図書館
香川	香川県立図書館
鹿児島	鹿児島県立図書館
神奈川県立図書館	神奈川県立金沢文庫
金沢文庫	岐阜県立図書館
岐阜	京都府立総合資料館
岐阜県庁	熊本県立図書館
京都府	高知県立図書館
熊本	埼玉県立浦和図書館
高知	佐賀県立図書館
埼玉	滋賀県立図書館
埼玉	千葉県立中央図書館
千葉	北海道庁
道庁	徳島県立図書館
徳島	阿波国文庫
徳島阿波	東京都公文書館
都史料	県立鳥取図書館
鳥取	富山県立図書館
富山	志田文庫
富山志田	県立長崎図書館
長崎	
長崎県庁	

一部、鳥取県立博物館所蔵

長野	県立長野図書館
奈良	県立奈良図書館
新潟県民俗学館	県立新潟図書館
新潟県立図書館	東京都立中央図書館
日比谷	市村文庫
日比谷市村	井上文庫
日比谷井上	加賀文庫
日比谷加賀	河田文庫
日比谷河田	近藤記念海事財団文庫
日比谷近藤	実藤文庫
日比谷実藤	特別買上文庫
日比谷諸家	諸家
日比谷諸家	青淵論語文庫
日比谷青淵	東京諺料
日比谷東京	諸橋文庫
日比谷諸橋	福井県立図書館
福井	松平文庫
福井松平	福岡県立図書館
福岡	福岡県立図書館
福岡	福岡県立図書館
松江	島根県立図書館
松江	宮城県図書館
三重県立図書館	青柳文庫
宮城	今泉文庫
宮城青柳	大槻文庫
宮城今泉	小西文庫
宮城大槻	伊達文庫
宮城小西	養賢堂文庫
宮城伊達	宮崎県立図書館
宮城養賢堂	山形県立図書館
宮崎	山形県立図書館
山形	山形県立図書館
山口	山口県立図書館
山口	山口県立図書館
山口文書館	

山梨	山梨県立図書館
和歌山	和歌山県立図書館
〔市立図書館等〕	
会津	会津若松市立会津図書館
浅野	広島市立中央図書館浅野文庫
浅野小田	小田文庫
足利	足利学校遺蹟図書館
芦屋市立図書館	
尼崎	尼崎市立図書館
飯田	市立飯田図書館
伊勢崎	伊勢崎市立図書館
伊勢市立図書館	
伊丹市立図書館	
岩国	市立岩国図書館
岩瀬	西尾市立図書館岩瀬文庫
岩槻市役所	
上田	上田市立図書館
上田花月	花月文庫
上野市立図書館	
魚津市立図書館	
白杵	市立白杵図書館
大垣	大垣市立図書館
大阪市	大阪市立中央図書館
大阪市役所	
大阪市立美術館	
大館	大館市立中央図書館
大館市立栗盛記念図書館	
岡崎	岡崎市立図書館
岡山市	岡山市立中央図書館
小田原	小田原市立図書館
尾道	尾道市立図書館

熱海美術館	MOA美術館	静岡県熱海市	華山文庫	愛知県渥美郡	高野山桜池院	和歌山県伊都郡
熱田	熱田神宮	名古屋市熱田区	春日大社	奈良市	高野山光台院	"
穴太寺	京都府亀岡市	京都府亀岡市	瓦北文庫	愛知県豊橋市	高野山光明院	"
安楽律院	大津市	大津市	上伊那図書館	長野県伊那市	高野山金剛三昧院	"
飯福寺	滋賀県伊香郡	滋賀県伊香郡	寛永寺	東京都台東区	高野山西南院	"
医王院	栃木県日光市	栃木県日光市	勸学院	大津市	高野山三宝院	"
老岐郷土研究所	長崎県壱岐郡	長崎県壱岐郡	観智院金剛藏	京都市南区	高野山持明院	"
池坊	池坊華道文庫	京都市下京区池坊短期大学	甘露堂	甘露堂文庫	高野山正智院	"
石山寺	大阪府池田市	大阪府池田市	義倉	義倉図書館	高野山親王院	"
逸翁美術館	猪熊恩頼堂	香川県大川郡猪熊熊男、一部四天王寺国際仏教大学・広島大学に移管	北岡	北岡文庫	高野山真別処	"
猪熊	猪熊恩頼堂	兵庫県西宮市井本進	北野	北野天満宮	高野山惣持院	"
井本	井本文庫	京都府与謝郡	杏雨	杏雨書屋	高野山高室院	"
宇良	宇良神社	東京都台東区	杏雨	杏雨書屋	高野山日光院	"
雲光院	雲川荘文庫	島根県安来市	金山寺	金山寺	高野山宝城院	"
雲樹寺	雲川荘文庫	雲川荘文庫目録(小田保次による)	久遠寺	久遠寺	高野山宝亀院	"
雲川	雲泉文庫	雲泉荘山誌(杉浦丘園による)	草間	草間文庫	高野山宝寿院	"
雲泉	雲山文庫	大津市	求法寺	求法寺	高野山竜光院	"
叡山	"	兵庫県姫路市	栗田	栗田文庫	高野山蓮華定院	"
叡山天海	天海蔵	京都市左京区	黒川古文化研究所	黒川古文化研究所	護国院	"
円教寺	"	大津市	華厳寺	華厳寺	護浄院	"
円満院	"	岐阜県揖斐郡	乾々	乾々斎文庫	五智院	"
横蔵寺	黄檗文庫	京都府宇治市万福寺	香雨	香雨文庫	五島美術館	"
黄檗	大倉文化財団	東京都港区	高貴寺	高貴寺	金光	"
大倉集古館	大倉精神文化研究所	横浜市港北区	鴻山	鴻山文庫	金剛峯寺	"
大倉山	大橋図書館	大橋図書館和漢図書分類目録による	高山寺	高山寺	根生院	"
大橋	愛媛県越智郡	大津市	光浄院	光浄院	金台院	"
大山祇神社	果園文庫蔵書目録(小田隆二による)	大津市	古靱	古靱文庫	金地院	"
戒光院	果園文庫	大津市	弘道館	弘道館	西教寺	"
果園	果園文庫	大津市	興福寺	興福寺	西教寺正教蔵	"

榎山	榎山文庫	茨城県鹿島郡鹿島	真乘院	津清文庫	竹清文庫	宇本日録三村清三郎による
植考	植考書屋	幸 植考書屋蔵書目録 (早川香邨による) 一部倉前書屋に移管	真福寺	竹柏	竹柏園文庫	竹柏園蔵書志(佐佐木信總による)
三鈷寺		京都市西京区	瑞光寺	智積院	お茶の水図書館	京都市東山区
三千院円融蔵		京都市左京区	鈴鹿	茶園	小笠原文庫	東京都千代田区
サントリー美術館		東京都港区	住吉	茶園小笠原	成賞堂文庫	"
三宝院	醍醐寺三宝院	京都市伏見区	生弓	生弓斎文庫	茶園成賞	"
柿衛	柿衛文庫	兵庫県伊丹市岡田利兵衛	青牛	青牛文庫	茶園竹柏	"
塩釜	塩竈神社	宮城県塩釜市	青山	高知県立郷土文化会館分館青山文庫	茶園武藤	"
志香須賀文庫		愛知県豊橋市	積翠	積翠文庫	茶園八重樫	"
止観院		大津市	石泰	石泰文庫	中央刀剣会	"
実教院		栃木県日光市	仙岳院	円教寺仙岳院	長栄寺	"
実光院		京都市左京区	浅草寺		徴古館	神宮徴古館
実蔵坊真如蔵		大津市	善峰寺		天満宮	天満宮文庫
実蔵坊第二真如蔵		"	雙林院		天籟	天籟文庫
滋賀十妙院		"	素行文庫		天理	天理図書館
兵庫十妙院	円教寺十妙院	兵庫県姫路市	尊經	前田育徳会尊経閣文庫	天理古義堂	古義堂文庫
十輪寺		京都市西京区	大光院		天理吉田	吉田文庫
松陰神社		山口県萩市	大護寺		天理綿屋	綿屋文庫
松宇	松宇文庫	京都市東山区	醍醐寺		桃園	桃園文庫
生源寺		大津市	大石寺		藤園	藤園堂文庫
聖護院		京都市左京区	大山寺		東寺	東書文庫
彰考	彰考館文庫	水戸市	大中院		唐招提寺	東書文庫
清淨華院		京都市上京区	大通寺		東大寺	"
小如舟	小如舟書屋	小如舟書屋蔵書目録 (小川琢也による)	大東急	大東急記念文庫	徳川美術館	"
松竹	松竹大谷図書館	"	大悲願寺		長尾美術館	"
成菩提院		京都市中央区	泰門庵		中島杏	"
勝林院		滋賀県坂田郡	大林院		成田	中島図書館杏文庫
青蓮院吉水蔵		京都市東山区	高木	高木文庫	南木	成田図書館
書芸文化院		京都市左京区	竜野	市立竜野図書館竜野文庫	西本願寺	南木文庫
白山比咩神社		東京都目黒区	多和	多和文庫	日経研	日本経済史研究所
紫蘭	紫蘭文庫	石川県石川郡 古淨瑠璃の研究(若月保也による)	原華山会	華山会		京都市下京区 大坂市東淀川区 経済大学に移管
神宮	神宮文庫	三重県伊勢市				

日本棋院 仁和寺 寧楽美術館 根津美術館 能福寺 箱根美術館 羽間 橋良 島山記念館 羽中山 林山 原田積善会 春海 阪急池田 斑鳩寺 般舟三昧院 東本願寺 毘沙門堂 藤井斉成会 藤田美術館 仏乗院 武徳会 方広寺 宝集寺 北条 宝菩提院三密蔵 法明院 鳳来寺 法隆寺 穗久邇	穂久邇文庫 北条文庫 東寺宝菩提院 藤井斉成会有鄰館 林山文庫 羽中八幡文庫 春海文庫 阪急学園池田文庫 大坂府池田市 兵庫県揖保郡 京都市東山区 京都市下京区 京都市山科区 京都市左京区 大坂市都島区 大津市 京都市左京区平安神宮内 京都市東山区 金沢市 日本棋院内、戦災焼失 京都市南区 大津市 愛知県南設楽郡 奈良県生駒郡 愛知県豊川市	法華経寺 牧野 正宗 松ヶ岡 松永記念館 松尾神社 平戸松浦史料館 丸山 曼殊院 密蔵院 三手 明德院 明德院無動寺 妙法院 妙本寺 無窮 無窮織田 無窮真軒 無窮神習 無窮平沼 村野 葉師寺 葉樹院 山中 祐徳 陽明 米本 来迎寺 来迎院如来蔵 竜門	千葉県市川市 愛知県新城市役所に移管 岡山県備前市 神奈川県鎌倉市 東京都千代田区 京都市西京区 長崎県平戸市 長野県小県郡、大分県は長野図書館に移管 京都市左京区 愛知県春日井市 京都市北区上賀茂神社 大津市 京都市東山区 千葉県安房郡 東京都町田市 無窮会 織田文庫 真軒文庫 神習文庫 平沼文庫 村野文庫 山中文庫 祐徳文庫 陽明文庫 米本図書館 阪本竜門文庫	千葉県市川市 愛知県新城市役所に移管 岡山県備前市 神奈川県鎌倉市 東京都千代田区 京都市西京区 長崎県平戸市 長野県小県郡、大分県は長野図書館に移管 京都市左京区 愛知県春日井市 京都市北区上賀茂神社 大津市 京都市東山区 千葉県安房郡 東京都町田市 無窮会 織田文庫 真軒文庫 神習文庫 平沼文庫 村野文庫 山中文庫 祐徳文庫 陽明文庫 米本図書館 阪本竜門文庫	凌霄 両足院 林政史 輪王寺 天海 輪王寺 日光 黎明会 礪川 蓮華院 六地藏寺 ○戦災その他で焼失または所在不明のもの 旧浅野 旧海軍 旧海兵 旧京城大 旧警防 旧清水最勝閣 旧下郷 旧彰考 旧成篁 旧智山 旧徳島光慶 旧蓬左 旧三井 旧安田 旧陸士	凌霄文庫 建仁寺両足院 徳川林政史研究所 輪王寺日光図書館天海蔵 輪王寺日光図書館 徳川黎明会 礪川文庫 大日本警防協会 三保最勝閣 下郷文庫 彰考館文庫 成篁堂文庫 智山専門学校 光慶図書館 名古屋市蓬左文庫 徳国文庫 三井文庫 安田文庫 陸軍士官学校	大坂市淀川区後藤大 一、一部四国女子学 に移管 京都市東山区 東京都豊島区 栃木県日光市 京都市東山区 東京都豊島区 愛知県豊島区 写本目録(尾島頭有) による、戦災焼失 大津市 茨城県東茨城郡
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

引用書目一覧

○主として明治以後の文献を掲げたが、明治以前のものも、書目・年表類は収め、できるだけ活字本を示した。
○書名は五十音順に排列した。
○(～)の中には、本目録に使用している略称である。

- 足利学校秘本書目(日本書誌学会編、昭和八年)
維新前東北地方刊行物解題(斎藤報恩会編、昭和九年)
維新前に於ける管内出版図書(宮城県図書館編、明治四三年)
伊勢物語古註釈の研究(大津有一、昭和二九年)
聿修堂蔵書目録(多紀元胤、写本)―(聿修堂書目)
伊藤常足翁顯彰録(伊藤常足翁顯彰百年祭実施委員会顯彰録編輯委員会編、昭和三五年)
伊呂波分珍書目録(岩本伍一編、写本)
岩波日本文学書目解説(昭和六八年)
講座ウキヨエ内史(渋井清、昭和七八年)
浮世草子年表(野間光辰、「国語国文」、昭和二九年一・三・七・九月号所収)
浮世草子名作集(評釈江戸文学叢書所収、昭和二二年)
内山真竜の研究(小山正、昭和五年)
越後の板本(新潟県書籍雑誌商組合編、昭和一六年)
越佐名家著述目録(新潟県立図書館編、昭和四年)
越中における印刷出版の年表(村上清造、昭和三二年)
江戸狂歌書目(野崎左文編、新群書類従七所収、明治三九年)
江戸時代染色技術に関する文献解題(後藤捷一、昭和一五年)
江戸時代の科学(東京科学博物館編、昭和九年)
江戸時代の古版本(奥野彦六、昭和一九年)
江戸時代の生機学(内山孝一、「科学」、昭和一一年一月号より一五年三月号まで三三回掲載、補遺一二二年一・二・三合併号、二三年六月号掲載)
享保江戸出版書目(樋口秀雄・朝倉治彦編、未刊国文資料別巻一、昭和三七年)
以後江戸出版書目(尾崎久弥、昭和一〇年)

- 江戸節根元集(愚性庵可柳、未刊隨筆百種一〇所収、昭和三年)
江戸文学辞典(暉峻康隆、昭和一五年)
歌麿会本解題(封醉小史、「奇書」、昭和三年一二月臨時増刊所収)
前後本の研究(仲田勝之助、昭和二五年)
絵本の研究(月曜会・有楽会編、昭和四年)
お伊勢詣り資料目録(岡村金太郎、大正一四年)
往来物分類目録(岡村金太郎、大正一四年)
以後大阪出版書籍目録(大阪図書出版業組合編、昭和一一年)
大阪名家著述目録(大阪府立図書館編、大正三年)
大祓詞概説(西寅夫、昭和一一年)
御国淨瑠璃集(小倉博編、昭和一四年)
開国文化史料大観(朝日新聞社編、昭和四年)
嘉永以前西洋輸入品及参考品目録(東京帝室博物館編、明治三九年)
仮名曆総目録(神田茂等編、国書研究室蔵、稿本)
加能郷土辞彙(日置謙編、昭和一七年)
歌舞伎序説(守随憲治、昭和一八年)
歌舞伎凶説(守随憲治・秋葉芳美編、昭和六年)
歌舞伎年表(伊原敏郎、昭和三三・三八年)
上方狂言本元禄宝永書目(未定稿)(分田善雄、「ピブリア」、昭和三三年三月号所収)
上方狂言本正徳以降書目(未定稿)(鳥越文蔵、「ピブリア」、昭和三五年六月号所収)
漢学者伝記及著述集覧(小川貫道編、昭和一〇年)
寛政享和咄本目録(宮尾しげを、「近世庶民文化」三一・三二合併号所収、昭和三一年)
寛文十年書籍目録作者付大蔵(未刊芸文資料三所収、昭和二八年)
寛文書籍目録(書目集覧一所収、昭和三年)(日本古典全集書目集上所収、昭和六年)
狂歌集目録(野崎左文編、大正一五年)
狂歌書目集成(菅竹浦編、昭和一一年)
郷土出版文化展覧会陳列書目録(市立名古屋図書館編、昭和一八年)
享保書籍目録享保一四年版(文照軒柴橋編、書目集覧二所収、昭和六年)
キシタン史展覧会解説目録(海老沢有道、昭和三一年)
桐生市史資料展覧会目録(桐生市史編纂委員会編、昭和二四年)

近畿善本図録(大阪府立図書館編、昭和八年)

近古小説解題(平出鏗二郎著、藤岡作太郎補、明治四二年)

近世漢学者著述目録大成(関儀一郎・関義直編、昭和一六年)

近世狂歌史(菅竹浦、昭和一五年)

近世邦楽年表常磐津・富本・清元之部(東京音楽学校編、明治四五年)

近世邦楽年表江戸長唄附大薩摩浄瑠璃之部(東京音楽学校編、大正三年)

近世邦楽年表義太夫節之部(東京音楽学校編、昭和二年)

勤王烈士伝(秋原正太郎編、明治三九年)

草雙紙と読本の研究(水谷不倒、昭和九年)

群書一覽(尾崎雅嘉、昭和六年)

群書備考(村井量令、大正五年)

補経解要目(池田四郎次郎、大正一五年)

京阪歌舞伎年表(秋葉芳美、稿本)

芸備郷土誌目録(森元国松編、昭和九年)

劇代集(桜田治助編、秋葉芳美補、写本)

外題年鑑(一)楽子編、浄瑠璃研究文献集成所収、昭和一九年(新群書類従七所収、明治三九年)

源氏物語研究書目要覽(藤田徳太郎、昭和七年)

源氏物語事典(池田龜鑑編、昭和三五年)

元禄十一年刊増益書籍目録(日本古典全集書目集統所収、昭和二二年)―(元禄十一年書籍目録)

元禄書籍目録(元禄五年版(書目集覽一)所収、昭和三年)

皇漢医籍書目(金子居水編、昭和七年)

考古画譜(黒川春村稿、黒川真頼補、黒川真頼全集一・二、明治四三・四四年)

皇室御撰之研究(和田英松、昭和八年)

考証伊勢物語詳解(鎌田正憲、大正八年)

好色浮世絵版画目録(波井清編、元禄古版画集英付録、大正一五年)

好色本目録(柳亭種彦編、新群書類従七所収、明治三九年)

古活字版之研究(川瀬一馬、昭和一二年)

国学者伝記集成(大川茂雄・南茂樹編、昭和九一・一〇年)

国学の研究(河野省三、昭和七年)

国劇史概観(高野辰之、昭和九年)

国語学書目解題(東京帝国大学編、明治三五年)

国史文献解説(遠藤元男・下村富士男編、昭和三二年)

国書逸文(和田英松編、森克己校訂、昭和一五年)

増国書解題(佐村八郎、明治三七年)

国朝書目(藤原貞幹編、日本古典全集書目集上所収、昭和六年)

国文学研究史(野村八良、大正一五年)

国文学踏査(大正大学郊北文学会編、昭和六・八年)

古事記大成(久松潜一編、昭和三一・三二年)

古事記年報(昭和三二)(古事記学会)

古浄瑠璃正本の所在(横山重、「日吉論叢」二輯所収、昭和一五年)

古浄瑠璃の研究(若月保治、昭和一八・一九年)

古版小説挿画史(水谷弓彦、昭和一〇年)

改訂古版地誌解題(和田万吉、昭和八年)

古物語名寄類韻(横山由清、物語草子目録前篇所収、昭和一二二年)

古物語目録(山岡俊明、物語草子目録前篇所収、昭和一二二年)

古物語類字鈔(黒川春村、墨水遺稿所収、明治三二年)(物語草子目録前篇所収、昭和一二二年)

埼玉名家著述目録(渡辺金造編、埼玉図書館叢書一、昭和七年)

挿絵節用(山中古洞、昭和一六年)

讃岐史料史籍目録(鎌田共済会調査部編、昭和一二二年)

史籍解題(遠藤元男・鈴木俊・原種行・田中正義編、昭和一二年)

悉曇目録(真源、大日本仏教全書仏教書籍目録二所収、大正三年)

指定文化財総合目録美術工芸品篇(文化財保護委員会編、昭和三三年)

邪教立川流の研究(水原堯栄、大正二二年)

洒落本序跋解題(国書研究室蔵、稿本)

重要美術品等認定物件仮目録(文化財保護委員会編)

浄土教稀観書目(藤堂祐範、「専修学報」七一〇号所収)

浄土宗辞典(恵谷隆成編、昭和一八年)

浄土宗西山派学匠著述目録(泉学洋編、「西山学報」九号付録、昭和一二二年)

浄土宗西山派書籍目録(恵谷隆成、国書研究室蔵、稿本)

浄土真宗聖教目録(先啓、大日本仏教全書仏教書籍目録一所収、大正二年)

声明本展観目録(中川善教編、昭和三年)

声明本展覽會特別出陳目錄(中川善教編、昭和三年)
昭和法寶總目錄(高楠順次郎・渡辺海旭・小野玄妙編、大正
大藏經別卷、昭和四
九年)——(昭和法寶目錄)

諸宗章疏錄(謙順編、大日本佛教全書叢書目錄一所收、大正二年)

女子用往來物分類目錄(石川謙編、昭和二年)

諸大名の學術と文芸の研究(福井久藏、昭和二年)

書法及奈良繪本展覧目錄(京都月曜會編、昭和二年)

女流著作解題(女子學習院編、昭和二年)

塵劫記及改算記目錄(平山諦、「真珠」二六二九号所收、昭和三〇—三二年)

新釋目錄(駒沢大學圖書館編、昭和三年)

新修繪入淨瑠璃史(水谷不倒、昭和二年)

新撰洋學年表(大槻如電、昭和二年)

神道書籍目錄(加藤玄智編、昭和三年)

神道大辭典(平凡社版、昭和二—一五年)

神道分類總目錄(井上哲次郎、佐伯有義編、昭和二年)

神都沿革史料目錄(神宮司庁所管徵古館農業館編、大正八—一〇年)

隨筆辭典解題編(森銑三編、昭和三年)

声曲類纂(斎藤月岑編、岩波文庫所收、昭和二年)

青洲文庫古板書目(渡辺信編、明治三八年)

西洋學家訳述目錄(穂亭主人編、文明源流叢書三所收、大正三年)

瀬越憲作製目錄(瀬越憲作、國書研究室藏、稿本)

選訳古書解題(水谷不倒、昭和二年)

禪籍目錄(駒沢大學圖書館編、昭和三年)

桑華書志所收歌書目錄(尊經閣文庫藏、写本)

曹洞宗大年表(大久保道舟編、昭和二年)

增補統群書一覽(西村兼文、大正一五年)

統群書類從目錄(群書類從正分類總目錄所收、昭和五年)

統史籍集覽番外雜書解題(戸田氏德編、明治二七年)

大辭典(平凡社版、昭和九—一一年)

大日本歌書綜覽(福井久藏、大正一五年)

智山學匠著書目錄(智山學會編、昭和一〇年)

地誌目錄(内務省地理局編、昭和一〇年)

中世歌壇史の研究(井上宗雄、昭和三年)

帝國美術史料(東京帝室博物館編、明治四五—大正三年)

鈔研齋軒書目(齋藤正謙、文明源流叢書三所收、大正三年)

典籍奏鏡(田口明良編、日本古典全集書目集中下所收、昭和六七年)

昭和天台書籍綜合目錄(渋谷亮泰編、昭和一五—一八年)

天和元年刊新增書籍目錄(日本古典全集書目集統所收、昭和二年)——(天和元年
書籍目錄)

德川時代稀覯本索引(金子居水、昭和一六年)

德川時代の米穀配給組織(鈴木直二、昭和一三年)

德島史料蒐集目錄(德島県庁編、昭和一三年)

奈良朝現在一切経疏目録(石田茂作編、写経より見たる奈良朝仏教の研究付録、
昭和五年)

二十卷本歌合目錄

日蓮宗宗學章疏目錄(日蓮宗大學編纂部編、大正七年)——(日蓮宗宗學章疏目錄
編纂)

日本醫學史(富士川游、明治三七年)

日本演劇史(伊原敏郎、昭和九年)

日本艶本目錄(大野卓、「奇書」昭和三年二月臨時增刊所收)——(艶本目錄)

日本艶本目錄(未定稿)(林美一、國書研究室藏、稿本)

日本火術考(西沢勇志智、昭和二年)

日本面論著作年表(坂崎坦、日本画の精神所收、昭和一七年)

日本基督教史關係和漢書目錄(海老沢有道監修、基督教史學會編、昭和二九年)

日本古刊書目(吉沢義則、昭和八年)

日本國見在書目錄(藤原佐世、統群書類從三〇輯下所收、昭和三年)

日本左伝研究著述年表並分類目錄(上野賢知、「東洋文化研究所紀要」一輯所收、
昭和三年)

日本小説年表(山崎麓編、近代日本文学大系二五、昭和四年)

日本水泳史料集成文獻篇(日本水上競技聯盟編、昭和二年)

日本説話文学資料展覧目錄(東洋大学文学部国文学研究室編、昭和三五年)

日本刀劍の研究(雄山閣編、昭和九—一〇年)

改訂日本博物學年表(白井光太郎、昭和九年)

增補日本博物學年表(白井光太郎、昭和九年)

日本馬術史(日本乘馬協會編、昭和一五—一六年)

日本漂流書目(新村出編、國書研究室藏、稿本)

日本文学者年表(赤堀又次郎、大正一五年)

日本文学大辞典(藤村作編、昭和七・一〇年)

日本法制史書目解題(池辺義象、大正七年)

日本梵語辞書史概説(岡田希雄、立命館創立四十周年記念論文集所収、昭和一六年)

形浄瑠璃史研究(若月保治、昭和一八年)

濃飛郷土志料目録(岐阜県郷土文化史調査会編、昭和一七年)

俳諧書籍目録(阿誰軒編、漆山天童補、新群書類従七所収、明治三九年)

俳諧大辞典(伊地知鐵男・井本農一・神田秀夫・中村俊定・宮本三郎編、昭和三二年)

函館郷土史料目録(岡田健蔵編、昭和一〇年)

函館図書館多与利(四八〇号、昭和一八年)

広重(内田実、昭和五年)

扶桑禅林書目(天章慈英編、大日本仏教全書仏教書籍目録一所収、大正二年)

仏教大辞典(竜谷大学編、大正三・一一年)

仏書解説大辞典(望月信亨編、昭和六・三八年)

仏書解説大辞典(小野玄妙編、昭和七・一一年)

仏典疏鈔目録(興隆、大日本仏教全書仏教書籍目録一所収、大正二年)

文明考(古書展覧会目録(荒木幸太郎編、大正一四年)

平安朝歌合大成(秋谷朴、昭和三・一四四年)

敝帯雜誌所収物語書名寄(岡本保孝、物語草子目録前篇所収、昭和一二年)

辨疑書目録(中村富平、日本古典全集書目集上所収、昭和六年)

防長史籍地誌解題(山口県史編纂所編、昭和一二年)

法然上人研究の回顧と展望(大橋俊雄、昭和三三年)

宝曆書籍目録宝曆四年版(文昌軒柴橋編、書目集覽二所収、昭和六年)

北海道史料所在目録(北海道史料編集所編、昭和二六・三二年)

本草書目動物の部(元治明治時代の博物教育図書目録(第十五回日本動物学会大会展覧会部編、昭和一四年)―(本草書目)

本朝医家著述目録(板原七之助編、昭和一〇年)

本朝画図品目(源高年編、写本)

本朝書籍目録(群書類従雑部所収、明治三五年)

本朝法家文書目録(統々群書類従一六所収、明治四二年)

松平大和守日記(若月保治、近世初期国劇の研究所収、昭和一九年)

三河文獻綜覧(近藤恒次、昭和二九年)

密教図像の研究(佐和隆研、「宝雲」二四号所収)

密教大辞典(密教辞典編纂会編、昭和六十八年)

増水戸の文籍(清水正健、昭和九年)

宮崎県郷土資料総合目録(宮崎県立図書館編、昭和四〇年)

宮崎県郷土資料目録(宮崎県立図書館編、昭和三四年)

室町時代物語の半数まで(横山重、「日吉論叢」一輯所収、昭和一四年)

明治前日本数学史(日本学士院編、昭和一九・三五年)

明治大正古書價之研究(水谷不倒、昭和八年)

明治文献目録(高市慶雄編、昭和七年)

明和書籍目録(明和九年版(博古堂南隠編、書目集覽二所収、昭和六年)

物語書目備考(伴直方編、物語草子目録前篇所収、昭和一二年)

物語草子解題(平出順益、物語草子目録前篇所収、昭和一二年)

山中進治作製目録(山中進治、国書研究室蔵、稿本)

唯識学典籍志(結城令聞、昭和三七年)

吉原書籍目録(柳亭種彦編、新群書類従七所収、明治三九年)

楽翁公伝附録年譜(波沢栄一、楽翁公伝所収、昭和一二年)

樂翁公余影(樂翁公遺徳顕彰会編、昭和四年)

輯類聚歌合とその研究(堀部正二、昭和二〇年)

靈雲叢書解題(行武善胤、大正五年)

連歌の史的研究(福井久蔵、昭和五・一六年)

露伴全集古今料理書解題(幸田露伴、露伴全集第四〇巻雜纂所収、昭和三三年)

和歌合略目録(統群書類従一七輯上所収、明治四五年)

和歌現在書目録(統群書類従一七輯上所収、明治四五年)

和歌文学大辞典(伊藤嘉夫・白田甚五郎・江湖山恒明・木俣修・窪田章一郎・五味智英・高崎正秀編、昭和三七年)

和算研究集録(林鶴一、昭和一二年)

和讀史概説(多屋頼俊、昭和八年)

『補訂版 国書総目録』について

国書研究室の編纂になる『国書総目録』全九巻は、一九六三年（昭和三十八年）十一月に岩波書店創業五十年を記念して第一巻が刊行され、一九七六年十二月に「著者別索引」を刊行して完結を見た。

発刊以来、多くの研究者・機関等からご教示いただいた記述の不備・誤りや編集過程で判明した追加・訂正は第八巻中の「補遺」と正誤表で訂正してきたが、この『補訂版 国書総目録』では、正誤表の記載事項のすべてとその後明らかになった訂正事項とを本巻中に織り込んで追加・訂正を施した。

また、「補遺」及び『国書総目録』刊行以後増加した古典籍の所在を明らかにした近刊の『古典籍総合目録——国書総目録続編』（国文学研究資料館編）に収める項目が本巻に収める項目と同一の場合は、本巻の項目ごとにそれを記号で明示し、関連項目を遺漏なく検索できるようにした。

この『補訂版 国書総目録』が従来にも増して、古典籍・古文書に関わるあらゆる分野において、学問・研究の基本資料としていっそう広く活用されることを願ってやまない。

終りに、本目録編纂に永年ご尽力いただいた先生方をはじめ、ご協力を賜った多数の方々には厚く御礼を申しあげる。

一九八九年八月

岩波書店編集部

補訂版の凡例

一、この『補訂版 国書総目録』には、『国書総目録』の正誤表に記載したすべての追加・訂正を織り込んだ。また、正誤表には記さずに増刷の際象眼訂正を施した若干の箇所についても、同様に訂正を施してある。

二、読みを訂正した項目は、正しい位置に排列し直した。また、↓記号を用いて別の読みを示した場合もある。

三、削除する項目の上には ⊗ 印を付した。

四、第八巻中の「補遺」に本巻と同一の項目がある場合は、本巻のその項目の上に ・ 印を付した。

ただし、「補遺」で項目を削除した場合は、本巻のその項目の上に ⊗ 印を付した。

五、国文学研究資料館編『古典籍総合目録——国書総目録続編』に本巻と同一の項目がある場合は、本巻のその項目の上に ○ 印を付した。

六、「補遺」と『古典籍総合目録——国書総目録続編』の両方に本巻と同一の項目がある場合は、本巻のその項目の上に ⊙ 印を付した。

七、便宜上一括して一項目とした検地帳・書籍目録・塵劫記・節用集・能狂言・能の本・武鑑の細目中に右の記号を付す場合は、その項目が独立して太字で記載されている箇所にも、同じ記号を付した。

八、各巻に付した「図書館・文庫一覧」「引用書目一覧」は、『国書総目録』第八巻に付したものを一部修正して掲げた。

第一卷

あ—お

